

文化財だより

NO.5



発行 ● 太田市教育委員会 発行年月日 ● 平成19年3月31日 編集 ● 太田市教育委員会文化財課
住所 ● 群馬県太田市粕川町520 電話 ● 0276-20-7090

東日本初!!

第13回

全国山城サミット

in

太田市

第13回全国山城サミット「山城の整備からまちづくりへ」

戦国の疾風を感じて

平成18年10月14日(土)・15日(日)

会場／太田市新田文化会館(エアリスホール)
主催／太田市・太田市教育委員会 後援／群馬県教育委員会・群馬県史跡整備市町村協議会

10月14日(土) 15時30分～

- 全国山城サミット協議会
・山城紹介 ・全国山城サミット宣言
 - 基調講演1／「まちづくりの視点から山城を考える」
足利工業大学工学部教授 為国 孝敏氏
- ※参加自治体・史跡金山城跡現地見学会(12:00～14:30)／説明：ボランティアガイド(金山城保存会)

10月15日(日) 9時00分～

- 基調講演2／
「地域の力が守る山城 ～春日山城の植生管理から～」
新潟県上越市教育委員会生涯学習推進課副課長 小島 幸雄氏
 - 基調講演3／
「『熊野水軍』とともにくらす ～和歌山県白浜町日置川地区の取り組みを中心に～」
茨城大学人文学部教授 高橋 修氏
 - 記念フォーラム／「山城の整備からまちづくりへ」
コーディネーター 為国 孝敏氏(足利工業大学工学部教授)
パネリスト 伊藤 正義氏(文化庁記念物課主任文化財調査官)
高橋 修氏(茨城大学人文学部教授)
小島 幸雄氏(上越市教育委員会生涯学習推進課副課長)
- ※史跡金山城跡現地見学会(13:00～15:00)／説明：ボランティアガイド(金山城保存会)
※金山城跡模型・写真パネル展示／10月14日(土)・15日(日)(エアリスホールにて)

問い合わせ先／太田市教育委員会文化財課 Tel.0276-20-7090

国指定史跡／金山城跡



史跡 金 山 城 跡 の最新情報

新たなるステージ「土屋敷」の調査はじまる！

- 調査場所：太田市金山町40-57ほか
- 調査期間：平成18年8月1日～
平成19年3月16日
- 調査面積：800㎡

平成18年度より、新たなる整備に向けて、城の南面の入り口と考えられている大手口を守る土屋敷域の調査を開始しました。

ここでは、戦国時代の曲輪の造成面や石垣、建物等の構築物の有無、土層の堆積状態などを確認し、整備に必要な資料の収集をしています。

今回の調査からは、硬い平坦面や石垣、土塁状の遺構が見つかりました。しかし残念ながら硬い平坦面は戦国時代の曲輪面ではなく、当時のものは浸食作用により流失してしまった状況が確認されました。石垣も、谷積み(間知積み)といわれる積み方で、大正時代以降の石垣と考えられる新しい時代のものであることがわかりました。

しかし、土塁状の遺構は、その中から、戦国時代に輸入された染付の磁器皿や国産の小皿の破片が出土するなど、その時代の遺構の可能性が高くなり、今後の調査が期待されます。



土屋敷調査位置(西から)



土塁状遺構(戦国時代の遺構か)



土塁状遺構出土の
戦国期磁器染付皿



調査風景



金山城跡整備事業（補助事業）



見附出丸・南土塁における遺構顕在化



見附出丸・南土塁下のジオファイバー工法

平成18年度の金山城跡整備事業（補助事業）は、見附出丸・南土塁について「遺構の顕在化」を図るため、南堀切・通路跡を含めた「遺構保護」のための盛土工事と排水工事を行いました。

南土塁では、改良盛土により遺構を保護し、法面の植栽を行いました。しかし、法面の保護盛土と植栽により、南下に存在する南堀切が埋まってしまい、戦国時代当時の南堀切の形状が全くわからないこととなります。そこで、南堀切の位置を表現するための植栽表示も行いました。来年度には、南堀切の調査前・発掘調査時の説明板を合わせて設置し、より市民の皆さんに山城における遺構の様子を理解していただくように努めてまいります。

一方、見附出丸・南土塁の東端部は虎口（出入口）となっており、南堀切の脇に通路が位置していました。そこで、南堀切の東端部では、連続繊維複合補強工法（ジオファイバー工法）により、通路から南堀切の形状を体感していただくこととしました。

この見附出丸では、太田市街地を含めて関東平野が一望できる絶好のビューポイントであり、整備されたこの見附出丸からの眺望も楽しんでみてはいかがでしょうか。

金山城跡整備事業（市単事業）

平成18年度の金山城跡整備事業では、市単事業として、平成15年度に整備工事を実施した西矢倉台通路脇の法面について、リュウノヒゲによる植栽工事を行いました。

この工事により、西矢倉台周辺における整備工事がほぼ完了しました。

なお、市単事業では、第1期整備範囲の導入口に設置されている「総合案内板」下の舗装工事も合わせて行いました。



西矢倉台通路脇・法面の植栽工事



史跡金山城跡の最新情報

金山城跡保存管理計画

平成18年度は、北城周辺、井戸沢周辺、彦七浦山ノ砦周辺について測量図化を行いました。



井戸沢周辺の段状曲輪群

金山城跡の公有地化

金山城跡は、昭和9年に国の史跡として18.3haの範囲が指定されましたが、その後、平成14年に追加指定され、指定面積は約5倍の97.8haに広がりました。この中には民有地が存在しており、城跡遺構群の保存管理と調査・整備の推進を図るため、現在、その公有地化を行っています。

平成18年度は11.6haを公有地化し、これにより、公有地面積は約94.1ha、公有地化率96.2%となりました。引き続き平成19年度以降も公有地化を進め、史跡金山城跡の保護と整備・活用の一層の推進を図っていきます。

金山城保存会

平成15年に、金山城跡の歴史的景観を自分たちの手で維持しようと発足した「金山城保存会」は、平成18年度も復元整備を完了した箇所を中心に草むしりや清掃活動を積極的に取り組みました。

また、今年度開催された山城サミットにおいてボランティアガイドとしての活動も開始しました。



金山城跡ボランティアガイド発足!!

平成18年度から史跡金山城跡第2期整備事業に着手するのを機に、金山城跡を訪れる人たちに解説を行う「ボランティアガイド」の養成講座を行いました。

養成講座の後、「史跡金山城跡ボランティアガイド4級」の認定試験が行われました。この認定試験に合格された方は、太田市教育委員会より平成18年9月25日に正式に認定されました。

認定されたガイドの方々は、10月14日(土)・15日(日)の「第13回全国山城サミット」においても活躍していました。



「史跡金山城跡ボランティアガイド4級」認定証



日本百名城・関東の富士見100景の記念碑建立！

「日本百名城」とは、財団法人日本城郭協会が設立40周年の記念事業の一環として、平成18年4月6日に選定したものです。

金山城もこの「日本百名城」の一つとして選定されましたが、平成18年10月18日に太田東ライオンズクラブより創立30周年を記念して選定の記念碑が寄贈されました。

一方、平成16年11月には国土交通省・関東地方整備局より金山城が「関東の富士見100景」にも選定されていましたが、併せて、太田東ライオンズクラブ寄贈により、銘板を埋め込んだ記念碑が建立されました。

この二つの記念碑は、金山城が「日本百名城」と「関東の富士見100景」に同時に選定されたことを地域の誇りとして認識してもらうと共に、後世へ伝えるための「道しるべ」でもあります。

寄贈していただいた太田東ライオンズクラブに対し、感謝申し上げます。



「日本百名城」の記念碑



「関東の富士見100景」の銘板

ガイダンス施設・地域交流センター「実施設計」



コミュニティスクウェアのイメージ



ガイダンス施設（左）地域交流センター（右）模型

史跡金山城跡では、今年度から第2期整備事業に移りました。その中で、山麓の太田口に文化庁補助による「ガイダンス施設」と国土交通省補助による「地域交流センター」を一体とした施設を建設することになり、今年度は、プロポーザルにより選定された設計業者による「実施設計」を行いました。

設計方針としては、金山城に入っていく「ゲート」として考え、敷地の「段差」をうまく利用しながら2つの建物がつながっている印象を持たせています。また、2つの建物の間には「コミュニティスクウェア」という広場を設けることにより、屋外での展示や様々なイベントに活用できます。

この「ガイダンス施設」と「地域交流センター」は、いよいよ来年度より建設工事が始まります。



史跡新田莊遺跡の最新情報

史跡新田莊遺跡保存管理計画

平成18年度の史跡新田莊遺跡保存管理計画策定事業は、「円福寺境内・十二所神社境内」、「生品神社境内」、「東照宮境内」、「明王院境内」について測量図化を行いました。



十二所神社境内



生品神社境内



東照宮境内



明王院境内

史跡新田莊遺跡 江田館跡の確認調査

- 調査場所：太田市新田上江田町地内
- 調査期間：平成19年2月19日～3月26日
- 調査面積：380㎡

昨年度に引き続き、江田館跡の史跡整備事業計画を進めるために学術調査を行ないました。

今回の調査では、本丸の北・東・南側について調査を実施しました。耕作によって表土が掻きまわされていたため、戦国期における江田館の遺構をはっきりと確認することができませんでしたが、人工的に掘られた溝址を確認しました。溝址の全体規模や造られた年代、性格については今後さらに調査する

必要があります。

なお、曲輪からは戦国期の江田館で使用されたとされるカワラケやホウロク、瀬戸・美濃産のすり鉢や小皿などの破片のほか、中国から輸入された青磁碗の破片が見つかりました。



江田館跡の調査風景（南東から）



ふれあい文化財教室

- と き：平成18年7月29日（土）～30日（日）
両日とも午前・午後の2回開催（計4回）
- ところ：太田市立城西小学校（体育館）
- 参加者：571名



子どもおとなも真剣です!!
〈職員からつくり方の説明を受けている様子〉

夏休み期間を利用し、太田市内在住の小学生とその家族を対象に「ふれあい文化財教室」として^{まがたま}勾玉づくり体験を開催しました。

参加者のほとんどがはじめての勾玉づくりでしたが、職員の指導のもと、加工のしやすい^{かつせき}滑石というやわらかい石を使用し、1時間半ほどでオリジナルの勾玉を完成させていました。

子どもたちはピカピカに輝く自分だけの勾玉を首にかけ、大変満足そうでした。

またこの勾玉づくりは“親子で一緒にものづくりをする”という家族でふれあえる機会となった点も好評でした。

アンケートには「こんなに一生懸命な子どもの姿を見るのは初めてだ」というコメントもありました。なかには子どもより熱中して勾玉をつくるお父さんやお母さんの姿もみられましたが…

親子ともに有意義な夏のひと時となったようです。



世界にひとつだけの勾玉
みんな上手にできました!!



会場は大盛況

アンケートより

○まがたま作り楽しかったです。また、まがたま作りがしたいです。
(3年生・女子)

○まるくけずるところがむずかしかったけど完成したらすごくうれしかったです。
(5年生・男子)

○親子共々楽しめました。また参加したいと思います。
(5年生・女子の保護者)

○自分のまがたまがつくれて楽しかった。
(4年生・女子)

第13回

全国山城サミット

平成18年10月14日(土)・15日(日)、第13回全国山城サミット「山城の整備からまちづくりへ」を開催しました。

山城を有する62市町が加盟する全国山城サミット連絡協議会が毎年開催するもので、18年度は太田市を会場に開催しました。

新田文化会館では、全国から参加した市町の山城紹介やサミット宣言を採択しました。その後、足利工業大学工学部為国孝敏教授「まちづくりの視点から山城を考える」・上越市教育委員会生涯学習推進課小島幸雄副課長「地域の力が守る山城～春日山城の植生管理から～」・茨城大学人文学部高橋修教授「“熊野水軍”とともにくらす一和歌山県白浜町日置川地区の取り組みを中心に～」という講演会を開催いたしました。また、今回のサミットのテーマである「山城の整備からまちづくり」について、パネルディスカッションをしていただきました。聴衆からは、「地域住民と行政が一体となって、山城を核とした積極的な活動を行い、新たなまちづくりをしなくては」という声が聞かれました。

太田市の山城である史跡金山城跡では、ボランティアガイドによる現地説明会を開催しました。金山に親しみと誇りを持つことができたと、現地で丁寧な説明を受けた多くの方たちから喜びの声がありました。



全国山城サミット連絡協議会 会場の様子
(新田文化会館エアリスホール)



1日目 15:30～
全国山城サミット連絡協議会 開催



次回、平成19年度の開催地は全会一致で
「広島県三原市」に決定



参加加盟団体の山城紹介
(写真は平成17年度開催地・滋賀県高島市による山城紹介)



「全国山城サミット宣言」をもって協議会を閉会





協議会に続いて記念フォーラムを開催
基調講演①「まちづくりの視点から山城を考える」
講師：足利工業大学教授・為国孝敏氏



記念フォーラム2日目
基調講演②「地域の力が守る山城～春日山城の植生管理から～」
講師：上越市教育委員会生涯学習推進課副課長・小島幸雄氏



基調講演③「“熊野水軍”とともにくらす～和歌山県白浜町日置川地区の取り組みを中心に～」
講師：茨城大学人文学部教授・高橋修氏



講師によるパネルディスカッション



詳細に再現された「金山城」の模型



現地見学会 史跡金山城跡ボランティアガイドによる説明の様子



新田文化会館（エアリスホール）に設置した展示コーナー



文化財めぐり

- テーマ：埼玉県西部の寺社めぐり
- と き：平成18年12月10日（日）
- ところ：高麗神社・聖天院（日高市）
喜多院・川越城・川越市立博物館（川越市）



高麗神社参拝の様子

今回は、埼玉県西部の寺院めぐりということで、まず、日高市にある高麗神社と聖天院を見学しました。

高麗神社では調査員さんより出世の神様として有名であることを聞きました。参加者の皆さんは子どもや孫にご利益をと熱心に参拝していました。

次に川越市に移動し、喜多院・川越城・川越市立博物館を見学しました。小江戸と呼ばれ、いにしえのロマンと面影が色濃く残る川越の街並みをめぐっていると、まるで江戸時代にタイムスリップしたような気分になりました。

重要な文化財が数多くあることを参加者に認識していただけた充実した一日となりました。

文化財講演会

- と き：平成19年2月12日（月）
午後1時30分
- ところ：太田市尾島生涯学習センター
多目的ホール
- 参加者：233名



講演していただいた穴澤義功先生（右）
基調報告していただいた谷藤保彦先生（左）



- 基調報告「太田市内の製鉄遺跡について」
～ 西野原遺跡・峯山遺跡の調査から ～

（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団の谷藤保彦先生から、7世紀末における東日本最大規模の製鉄遺跡「西野原遺跡」（藪塚町・西長岡町）と、幻の製鉄炉の良好な遺構が確認された「峯山遺跡」（強戸町）を中心に基調報告をいただきました。製鉄についての基本なお話から西野原遺跡と峯山遺跡の意義まで、映像を使いながらわかりやすくお話をいただきました。

- 講演「古代国家と東国の鉄づくり」

たたら研究会会員で、製鉄遺跡研究会代表である穴澤義功先生から、古代東国における鉄づくりを中心にご講演をいただきました。先生が全国各地を飛び回って集められた膨大なデータをもとに、古代国家や東国において「鉄づくり」が果たした重要な役割や、地域におけるその影響について難しいながらもわかりやすくお話をいただきました。



展示会場風景



北部スポーツ公園内遺跡群（第3次調査）

- 調査場所：太田市上強戸町地内
- 調査期間：平成18年4月11日～
平成18年7月31日
- 調査面積：約9,500㎡

平成17年度に実施した第1次・第2次調査に引き続き、北部運動公園造成区域内の遺構確認とその記録保存を目的に発掘調査を実施しました。

傾斜のきつい地形にもかかわらず、古墳時代前期の住居跡35軒などが密集した状態で検出され、この時期の集落の立地を知る上で重要な発見となりました。住居跡は2次調査同様、火災にあつて（てつぞく）いるものも多く、土器が多量に出土しました。鉄鏃（鉄製の矢尻）や管玉（石製の首飾り）も出土しました。

また、古墳時代の方形周溝墓において、底面に礫（れき）（小石）が敷かれた主体部（お墓の埋葬施設）が確認され、ここから長さ40cmで完全な形の鉄剣が出土しました。この鉄剣は群馬県内でも類例の少ない貴重な資料です。さらに、新たに古墳時代後期の住居跡2軒が検出され、集落がさらに継続していたこともわかりました。



傾斜地で検出された住居群（上空西から）



方形周溝墓から出土した鉄剣

中屋敷東遺跡、村田・本郷遺跡

- 調査場所：太田市新田村田町地内
- 調査期間：平成18年12月2日～
平成19年2月28日
- 調査面積：約1,400㎡

市道建設事業に伴い、道路拡幅部分の発掘調査を行いました。

中屋敷東遺跡では、古墳時代前期から後期の住居跡3軒や土坑20基等が見つかりました。村田・本郷遺跡では、古墳時代から古代の住居跡4軒、井戸2基等が見つかりました。また、中世の周囲（やかたあと）を溝で囲われた館跡が1箇所確認されました。館跡は東西方向で約35mの範囲を溝で区画しています。西側を二重の溝跡、東側を三重の溝跡で囲われており、溝の内側にはおびただしい数の柱穴（ちゅうけつ）が見つかりました。この柱穴は掘立柱建物跡の柱を埋めた跡と考えられ、数回におよぶ建て替えが行われたと考えられます。館の年代は室町時代から戦国時代と考えられ、溝からこの時代のカワラケ（素焼きの土器）や磁器の破片が出土しています。この館跡は地元で田中屋敷と呼ばれていたという言い伝えがあります。



多数見つかった掘立柱建物の柱穴跡（西から）



柱穴発掘作業風景（東から）

東部地区遺跡群

- 調査場所：太田市堀口町地内
- 調査期間：平成18年11月1日～
平成18年11月30日
- 調査面積：約1,025㎡

尾島東部土地区画整理事業に伴って実施した発掘調査で、古墳時代前期の住居跡1軒や奈良時代から平安時代の住居2軒等が見つかりました。なかでも、古墳時代前期の住居跡には住居を切る形で噴砂（地震時に地割れが起きて、砂が地下水とともに噴出したもの）が無数に確認されました。地割れが古墳時代前期より後の時代に起こったことは明らかですが、時代を特定するような資料は発見できませんでした。



古墳時代の住居跡発掘風景（西から）

北関東自動車道関連遺跡

- 調査場所：太田市菅塩町地内
- 調査期間：平成18年10月20日～
平成18年12月25日
- 調査面積：約273㎡

北関東自動車道側道整備に伴って実施した発掘調査で、住居跡等の確認はできませんでしたが、北関東自動車道本線の発掘調査で確認された溝址の続きが見つかった他、計4条の溝址を確認することができました。



発掘調査風景

塚井遺跡

- 調査場所：太田市沖之郷町地内
- 調査期間：平成19年1月30日～
平成19年3月26日
- 調査面積：約5,000㎡

国営荊川遊水地造成事業に伴って実施した発掘調査で、古墳時代前期の住居の跡、掘立柱建物跡（高床の建物又は、平地式の建物）等が確認されています。

この遺跡は、平成18年11月に発見されたもので平成19年度も引き続き発掘調査を実施する予定です。



遺構確認風景



埋蔵文化財最新情報展『金山西部の古代の村々』

- と き：平成18年11月23日(木)～27日(月)
- ところ：農村環境改善センター(新野町310)
- 参加者：約400人

最近発掘した遺跡の内容や出土品を紹介する、埋蔵文化財最新情報展が開催されました。

今回は、新野町、脇屋町、上強戸町など、金山西部の地域から出土した土器や石器を中心に展示しました。「古代の住宅団地」「古代の焼物工場」「村を見守る古墳」という小テーマを設け、新野・脇屋遺跡群で出土した縄文土器や埴輪、強戸口遺跡群で出土した須恵器を展示し、このほかに竪穴式住居の模型や埴輪の人形なども展示しました。

来場された方は、新野・脇屋遺跡群の巨大な埴輪円筒棺や、土器の復元作業を紹介するコーナーに注目していたようです。また、勾玉づくりコーナーでは、子どもたちが勾玉づくりにチャレンジしました。



新野脇屋遺跡群の縄文土器



竪穴式住居の模型



須恵器窯の模型



勾玉づくりにチャレンジする子ども達



埴輪円筒棺を見る人たち

出土遺物整理作業

文化財課では、発掘調査の成果を公開するために、発掘調査後は出土した土器の接合・復元作業を行ったり、復元された遺物の実測・写真撮影等を行い、発掘調査報告書の作成等を実施しています。

平成18年度は、前年度からの継続事業として実施している強戸口遺跡群や今井地区遺跡群、尾島工業団地遺跡、太田市内遺跡の整理作業に加え、新たに新野・脇屋遺跡群の遺物整理作業を実施しました。また発掘調査報告書としては、『太田市内遺跡2』を刊行しました。



新野・脇屋遺跡群の復元作業



強戸口遺跡群の注記作業風景



新野・脇屋遺跡群の出土遺物

事前協議

平成18年度 事前照合件数および調査面積

内 容	公共事業	民間事業	計
事前照合・協議	19 件	871 件	890 件
本発掘調査	10 件	2 件	12 件
試掘調査	10 件	22 件	32 件
立会調査	12 件	71 件	83 件
慎重工事	2 件	77 件	79 件
試掘調査面積	2,560 m ²	3,508 m ²	6,068 m ²
立会調査面積	56 m ²	1,335 m ²	1,391 m ²
本調査面積	19,128 m ²	90 m ²	19,218 m ²



試掘調査

No.	遺跡名	所在地 (太田市)	試掘 調査月	原因者	No.	遺跡名	所在地 (太田市)	試掘 調査月	原因者
1	原宿川向遺跡	原宿町	H18.5	民間	17	FP泥流下遺跡群	尾島町	H18.11	市
2	FP泥流下遺跡群	尾島町	H18.6	民間	18	下田島遺跡	下田島町	H18.11	民間
3	西田島遺跡	下田島町	H18.6	民間	19	中溝II遺跡	新田小金井町	H18.12	市
4	高林鶴巻古墳	高林南町	H18.6	民間	20	中屋敷東遺跡	新田村田町	H18.12	市
5	茶臼山古墳	別所町	H18.7	民間	21	村田・本郷遺跡	新田村田町	H18.12	市
6	FP泥流下遺跡群	亀岡町	H18.8	民間	22	大門遺跡	由良町	H18.12	民間
7	東部地区遺跡群	岩松町	H18.8	市	23	成塚住宅団地遺跡群	成塚町	H18.12	民間
8	上遺跡	鳥山上町	H18.9	民間	24	金山城跡縄張り	金山町	H18.12	市
9	牛沢稲荷山古墳	牛沢町	H18.9	民間	25	杉ノ下遺跡	岩瀬川町	H19.1	民間
10	北部スポーツ公園内遺跡群	上強戸町	H18.10	市	26	大日山古墳群	石原町	H19.1	市
11	西矢島遺跡	西矢島町	H18.10	民間	27	上江田城跡	新田上江田町	H19.2	市
12	西野東中遺跡	藪塚町	H18.10	民間	28	北明泉寺遺跡	飯塚町	H19.2	民間
13	赤仏遺跡	新田中江田町	H18.11	民間	29	鳥ヶ谷戸遺跡	鳥山中町	H19.3	民間
14	FP泥流下遺跡群	粕川町	H18.11	民間	30	安良岡古墳群	台之郷町	H19.3	市
15	境ヶ谷戸遺跡	新田市野井町	H18.11	民間	31	FP泥流下遺跡群	亀岡町	H19.3	民間
16	塚井遺跡	沖之郷町	H18.11	公共	32	西野東中遺跡	藪塚町	H19.3	民間



群馬県指定重要文化財「板面著色三十六歌仙図」修復作業



「藤原仲文」絵図 修復前（左）修復後（右）

「板面著色三十六歌仙図」の修復事業は、平成18年度は「頼基朝臣」（作者不明）「壬生忠岑」（作者不明）「藤原仲文」（狩野元俊）3枚の剥落止め及び模写を実施しました。

「頼基朝臣」「壬生忠岑」については、松本寛先生が『世良田東照宮の三十六歌仙絵額』（MUSEUM 東京国立博物館美術誌昭和59年1月号）で、「順番から考えれば「狩野休白」の作品だったのだろうが、その後損傷などのため鑑賞に耐えなくなり、そこでやむを得ずこの二つの補作が作られたのだろう」と書かれています。今回この2枚については、休白の10枚を復元模写する過程で判明した作風を基に模写を作成しました。このことにより、約360年前に制作された当時の「板面著色三十六歌仙図」を偲ぶことができるようになりました。

文化財模擬火災訓練

昭和24年1月26日、国宝「法隆寺金堂壁画」が火災により焼失しました。このことから昭和30年に1月26日を「文化財防火デー」と定めて、毎年、全国的に文化財防火運動が実施されています。

本市でも、消防本部・太田消防署等に指導を仰ぎながら関係機関及び地元住民の協力のもと、毎年、この日に近い日曜日に「文化財模擬火災訓練」を実施しています。

今年度は、平成19年1月21日に金山町の金龍寺境内で行いました。

訓練は、午前9時から金龍寺本堂より出火という設定で発炎筒が点火され、初期消火作業、消防車の出動、一斉放水などの一連の作業が手際よく行われました。関係者のみならず、地元住民の協力により見事な訓練を実施することができました。





高山彦九郎記念館

高山彦九郎講演会

- と き：平成18年6月4日（日）
午後1時30分
- ところ：太田市商業高校 文化棟 ホール
- 参加者：137名

中世史が専門の太田女子高等学校教諭、須藤聡先生をお招きして「太平記に見る新田一族」と題した講演会を開催しました。

太平記に登場する高山彦九郎の祖先の「高山氏」やその「系図」から、高山氏の成立、新田義貞の挙兵、建武政権に身を捧げた活躍を、詳細に講演していただきました。



講演する須藤聡先生と聴衆

「この時代は、複雑でわかりにくいですが、詳しい資料で興味深く聞くことができました。」との参加者の声が印象的でした。

開館10周年記念企画展「彦九郎山河の世界」～吉村昭氏をしのぶ～

- と き：平成19年2月17日（土）
～3月31日（土）
- ところ：高山彦九郎記念館2階展示室
- 共 催：高山彦九郎記念館サポーターズ
- 来場者：682名



抹茶接待



ポスター

平成18年度に高山彦九郎記念館は開館10周年を迎えました。そこでその記念として「彦九郎山河の世界」と題し、高山彦九郎記念館サポーターズと協働して企画展を開催いたしました。

『彦九郎山河』とは、高山彦九郎を題材とした吉村昭氏の歴史小説で、平成6年に東京新聞等において連載されました。

展示品の中では、当館が所蔵する吉村昭氏の『彦九郎山河』自筆原稿や、それに伴う秋野卓美氏画の挿絵のほか、お貸しいただいた万年筆やルーペなど吉村氏の愛用品が注目を集めていました。

また企画展開催中の土・日曜日には、記念館内庭園前において「抹茶接待」を行い、来館者はやすらぎのひとときを楽しんでいました。



展示風景



吉村昭氏の愛用品



高山彦九郎記念館案内

- 開館時間：9：30～17：00（入館は16：30まで）
- 休館日：●月曜日（休日に当たる場合は翌日）
●年末年始（12月29日～1月3日）
- 入館料：個人100円 団体80円（20名以上）
※中学生以下は無料となります。
- 交通のご案内
 - 東武伊勢崎線細谷駅下車徒歩10分（800m）
 - 東武伊勢崎線太田駅下車タクシー10分（5km）
- 駐車場：普通車23台（バスも駐車可能）

高山彦九郎は上野国新田郡細谷村（現太田市細谷町）で生まれた江戸中期の勤王思想家で、明治維新を導いた幕末の志士たちに大きな影響を与えた人物です。

江戸・京都・細谷（現太田市）を拠点として全国各地を遊歴し、学者・文化人だけでなく、公家や諸国の藩主・武士・神官・農民など様々な人々



と交流しました。

彦九郎の思想と情報は、地域や階層を越えて伝わり、日本の歴史を動かす原動力ともなりました。

この記念館は、高山彦九郎を再評価し、その人物像を広く知っていただくため、平成8年5月3日に、国指定史跡・高山彦九郎宅跡附遺髪塚の隣接地に開館しました。

縁切寺満徳寺資料館

縁切寺満徳寺資料館 入館者20万人達成



記念品を手渡す高木館長(左)と原嶋さん

縁切寺満徳寺資料館の入館者が平成19年1月25日(木)、オープンから14年2ヶ月で20万人を達成しました。20万人目の入館者となった原嶋一夫さん（深谷市 60歳）には、高木侃館長から花束のほか、記念品として「おおたん」のぬいぐるみとバッジ、さらに館長が寄稿した雑誌（ちょうどこの日発売の「藤沢周平の世界」11号）が手渡されました。

原嶋さんは、定年を迎え、史跡めぐりを楽しんでいるそうで、この日は長楽寺（世良田町）の後、当館に立ち寄られたということです。思わぬ記念品にびっくりするとともに喜んでいらつしやる様子でした。



縁切寺満徳寺資料館 徳川大学講座紹介

資料館では一般市民を対象とした公開講座に所在地名「徳川」を冠して、徳川大学として実施しています。講演のテーマは江戸時代と男女同権です。

第1回 公開講座

- と き：平成18年5月14日（日）
午後2時開演
- ところ：縁切寺満徳寺復元本堂
- 講 師：法政大学講師・学術博士 小泉吉永先生
- 参加者：49名
- 演 題：「女大学の世界」



小泉吉永先生

第2回 大衆文化講座 落語

- と き：平成18年6月8日（木）
午後6時30分開演
- ところ：縁切寺満徳寺復元本堂
- 演 者：古今亭駿菊師匠 古今亭菊之丞師匠
- 参加者：130名
- 演 目：駿菊師匠「町内の若衆」「ほうだら」
菊之丞師匠「豊竹屋」「おかめだんご」



古今亭駿菊師匠



古今亭菊之丞師匠

第3回 公開講座

- と き：平成18年10月29日（日）
午後2時開演
- ところ：尾島生涯学習センター
- 講 師：家政学博士 森田登代子先生
パフォーマンス 森田加津世さん
- 参加者：73名
- 演 題：「母として研究者として
一重度障害者の娘と共育ちー」



森田加津世さん(左) 森田登代子先生

第4回 伝統文化講座 琵琶

- と き：平成18年11月16日（木）
午後6時30分開演
- ところ：縁切寺満徳寺復元本堂
- 演 者：薩摩琵琶錦心流中谷派 荒井紫水師
賛助出演 箏 仲林光子先生
みさと笛 仲林利恵先生
- 参加者：135名
- 演 目：「那須与一」「俊寛」「狸々」ほか



仲林光子先生(左) 荒井紫水師



友の会主催

「狂言の夕べ」・「東慶寺見学会」

●復元本堂で平成7年から「狂言の夕べ」を主催してきました。1回目は和泉流の和泉元弥師、3回目以降は山本東次郎師の至芸を堪能して、11年を迎えました。本年は平成18年10月12日(木)、演目は「佐渡狐」「腹不立」「髭櫓」の3曲のほか、東次郎師による絵解き(解説)と小舞を演じていただきました。



狂言 髭櫓

●平成19年3月8日(木)、友の会会員ほか計50名の参加をえて、縁切寺として名高い鎌倉東慶寺の見学会を催しました。東慶寺では墓域見学後、東慶寺住職井上正道和尚にご案内いただき、書院、本堂を経て水月観音を特別拝観。その後、茶室「寒雲亭」で抹茶をいただきました。



水月観音を案内する井上正道和尚

縁切寺満徳寺資料館案内



復元された本堂

縁切寺は江戸時代夫の不法に泣く女性を救済して、夫との離婚を成立させる避難所(アジール)でした。最終的に幕府(国家)権力を直接の後ろ盾として離婚を強制する制度はほかにありません。ですから満徳寺は鎌倉の東慶寺とともに「世界に2つの縁切寺」だったのです。旧尾島町では文化的・歴史的意義を高く評価して、資料館とその後本堂を復元、旧境内を整備しました。

資料館では、春秋年2回企画展を行っています。かつて縁切寺であったことから「三くだり半」をテーマとした企画展を19回、特別展を8回開催しました。18年度は新太田市誕生一周年記念特別展



平成19年度企画展
「寺子屋の世界」ポスター



平成18年度企画展
「飯盛女の三くだり半」の
図録表紙

として「女大学の世界」、三くだり半企画展として「飯盛女の三くだり半」を開催しました。19年度春の企画展は、特別展「寺子屋の世界」を4月28日(土)～6月10日(日)に開催します。

(HPは <http://www8.wind.ne.jp/mantokuji/>)

- 開館時間：9時30分～17時
(入館は16時30分まで)
- 休館日：月曜日(休日にあたる場合は翌日)
年末年始(12月29日～1月3日)
- 入館料：個人200円 団体160円(20名以上)
※中学生以下は無料となります。



藪塚本町歴史民俗資料館

藪塚本町歴史民俗資料館案内

当館は昭和53年に開館し、現在は縄文時代の土製耳飾りや市内各地より出土した埴輪を中心に展示しています。

昨年に展示のリニューアルを行い、古代衣装体験コーナーなど設置、多くの皆さんに喜んでいただきました。

ここでは、平成18年10月に行われた「全国山城サミット」で上映した金山城跡の紹介映像「活用編・整備編・模型編」の3作品を上映しております。現在ここでしか見ることができませんので、ぜひ一度おこしください。



金山城跡の紹介映像
(調査中の大手虎口)



常設展示風景



縄文時代の土製耳飾り

- 開館時間：9時30分～17時00分
- 休館日：月曜日（休日にあたる場合は翌日）
年末年始（12月29日～1月3日）
- 入館料：個人100円 団体80円（20名以上）
※中学生以下は無料

文化財指定の新たな枠組み

文化財課長 宮田 毅

平成18年度は、世界文化遺産ブームとなった。県が主導で、国内候補地「暫定リスト」登載の県民運動を展開し、上毛新聞も大キャンペーンを張った。その甲斐あって、1月23日、文化庁が「富岡製糸場と絹産業遺跡群－日本産業革命の原点－」を含む4件の追加記載を発表した。

このような盛り上がりの中で奇妙な現象も起きた。旧官営富岡製糸場単独での「暫定リスト」登載は難しいとの判断から、10ヶ所（10市町村）を絹産業遺跡群として括って申請した。蚕の生産から、製糸、絹織物、物流（輸送）まで、絹産業の一連の流れを「富岡製糸場と絹産業遺跡群」として一括したのである。その結果、市町村の文化財指定すら受けていない物件をも含めることとなった。個別では指定文化財にならなくとも、世界遺産なら認められるという現象が起きたのである。言い換えると、未指定の文化財でも、ストーリー性を持つ一群の括りの中で見れば、欠かせない貴重なパーツとなり、極めて高い評価にもなり得るということである。従来の文化財指定制度の枠の中では、あくまでも個別の歴史的な価値が重視され、「重要文化財」、「史跡」や「天然記念物」として分類ごとに指定されてきた。

「史跡 新田荘遺跡」のように、広範囲に点在する文化財を、群（一つの括り）として指定するという方向が始まってはいるが、基本はあくまでも個々の文化財の歴史的な価値にあり、種別ごとの指定である。市内には、新田荘に関連する文化財は多く存在するが、あくまでも、「史跡」としての指定であり、仏像や建造物などは含まれていない。「新田荘の文化遺産」という枠組みで捉えれば、史跡も重要文化財も一緒に括ることができるが、残念ながら、種別ご

とに指定をかけているのが現状であり、文化財の種別を超えた文化財の指定制度はない。世界文化遺産の登録基準とはこの点が異なるところである。

近年、環境の保全という観点から「景観」を重要視する考え方が生まれてきた。社寺建造物や鎮守の杜などの在る歴史的景観を、生活環境として大切にしようという考え方である。しかし、仏像は文化財指定を受けているが、それが安置されている建造物は指定されていないという例は多い。また、本殿は指定されても、鎮守の杜は指定を受けていないという例がほとんどである。バッファゾーンを指定に含めるという考え方はない。これも、文化財指定制度が時代の要求に追いついていないということである。

文化財指定は、第一義的には「保存」にあることは理解できる。しかし、文化財の存在意義を認めるのは人であり、守るのも人である。保存が行き過ぎると、文化財を人と隔絶することになりかねない。指定文化財は公開することが重要であり、もっと身近なものへと引き戻さなければならぬだろう。

文化財を見学する側の立場になれば、点在しているよりは、集中していた方が活用しやすい。環境整備するにしても、効率的であり効果的であり、文化財が形成する歴史的景観が、「町づくり」や地域活性化の「核」と成り得て来る。現在の指定制度の中であって、古さや希少性もさることながら、文化財の括りとしてのストーリー性を考慮する中で、既指定文化財との関連性や集中性を重視した指定の方向性を持つことが肝要であり、文化財行政に求められていることではないだろうか。